

イタリアを旅する時 人々は ありきたりの旅では巡り会うことのない美を見出し、味わい、堪能することが出来る。そこにはそれぞれの時代が生み出した歴史的な遺産が数多く残されている。

小さい州ではあるが独特の風景が広がるバジリカータ州では 人々はより自然なリズムの生活に引き戻されるような風景に出会うことができるだろう。

古い伝統を知り、伝統料理を味わい、地中海文明の宗教的祭典や儀式等を求めて旅をする人々にとっての理想郷といえよう。

文明、自然への旅の一環として 私どもでは地域の人々と共に過ごす休暇を願う人々のために料理や、工芸品の修復、伝統の職人芸などを学ぶコースや講座も用意しているのである。

## 自然と神秘

まだまだ 知られていないイタリアの奇跡 それこそがバジリカータである。

光あふれる大地、旅の魅力を再発見したいと望む人々を虜にするその大地は、変化に富んだ風景の中に切り立った山々や 連なる丘となって姿をあらわす。

バジリカータはまさに 対立と調和のせめぎあう地域なのである。

ポテンツアのうっそうとした森林地帯からマテラの小麦畑の風景の広がり あるいは イオニアの砂浜からティレニアのリアス式海岸に至る変化 はたまた 緑の牧草地帯から黄色く実る小麦畑へと続く地平線は 果てしなく長く すべては奥深い静けさの中にある。

ここにある風景は 時代から置き去りにされたかのように未だ手つかずのまま残り 物悲しく荒涼とした美をかもしだしている。

その自然の美しさ、1000年にわたる変化、それぞれの小村落に根づく伝統は 人々の心を深くひきつける。

地中海のシンプルな香りと多様な味覚に満ちた素朴な郷土料理も ヘルシーさと云う観点で人々をひきつけ 何よりも土地の人々のあたたかいもてなしが 旅人に忘れがたい感動を呼び起こすことだろう。

## 世界遺産 マテラのサッシ

マテラには イタリアの中でも特に魅惑的な歴史街区がある。

古代の街並"サッシ"はそれ自体が一つの巨大な彫刻とも云える奇跡の都市である。 そこでは長い世紀の流れの中で起きた様々な変遷の歴史の痕跡を見つけることができる。

グラビナの右岸にはたくさんの建築物がある。 それは 入り組んだ小路、広場、小さい集落、洞窟、岩窟教会、まるで地球の胎内に落ち込んでいくような気持ちになるワイナリー、住居の集まりである。さらにその住居は 何層にも渡りある時は屋根が小路になり ある時は上に連なる住居の床にあたる部分となるというふうにしてすべてが複雑にからみあった構成になっている。





それぞれの入り口の扉の背後には 驚くべき建築物が隠れていた。

各居住区(洞窟 領主の館 共同住宅 家々)の分類を見ると 地理的な位置  
歴史の時代毎にそれぞれ違いが認められる。

宗教的建築物についても同様のことがいえる。

街にある 岩窟教会は 10か所以上にのぼり グラビナの近くには 全部で 100以上もの教会域がある。

そして 大聖堂や サン ジョバンニの ロマネスク様式から サン フランチェスコや プルガトリオ  
のような バロック様式に至る建築教会は 新市街との境界あたりの平地に位置している。

1950年代になり 住民はサッシを捨て新しい住宅街に移ったが、この15年位前から再びサッシは 高  
い評価を受け改築や修復の助成が受けられるようになった。

1993年 サッシはユネスコ世界遺産の指定を受けた。

## マテラの丘陵地帯

時代を越えた大気が マテラのサッシを魅了し 人々はその向こうに対比をなして広がる大地の驚異に  
圧倒される。地平線はあくまでおだやかにゆるやかに広がり、そして人々のたゆみない  
労働が実りをみせるはてしなく続く丘陵地帯へと ひきこまれていく。

ブラダノやバセントの谷のあたりは南東側は海から吹き付ける熱風から 北西側は岩のうねりや  
山の生い茂る林に守られている肥沃な大地である。しかし もっと南側のルカーノの大地を見渡せば  
ごつごつして ほとんど月面のような風景が広がる。

スティリャーノやアッチェットゥーラの周辺の田園詩のような雰囲気の中や アリアーノの乾燥しき  
つて静まり返る深い谷をゆけば 感動的なひとときを過ごすことができるだろう。

## 要塞型農場

もともと住居部分と作業場、そして周辺地域の経済活動の中心として機能してきた要塞型農場は  
建てられた時代によって構造上非常に変化に富んでいて 四角形に設計されていたり 円形の見張り塔が  
あったり また外壁には 農場内の穀物庫や家畜類 住人達を守るためのパトロール用の堀などがある建  
物となっている。

今日 多くの農場はアグリツーリズムとしてリニューアルされて観光に使用されている。  
田園生活の生き生きとしたリズム、自然との直接のふれあいに満ちた快適な滞在が楽しめるよう  
になっている。

## 歩いて楽しむ風景

バジリカータでのトレッキングでは バラエティーに富んだ変化や風景には 驚くべきものがある。ムルジアマテラーナに点在する岩窟文明の村々からポリーノの山岳地帯の頂上を巡り ガリポリコニャート公園の村落地帯や林の中を通り過ぎることになる。

マテラとモンテカリャート公園の間に広がる地域であるキエーゼルペストリ公園には 実に150以上にのぼる岩窟教会があると知られるが その多くにはたくさんのフレスコ画が残り 旧石器時代 新石器時代から 人が集まり住んだことを示すように住居地区に散在している。

渓谷沿いを歩きマテラの岩窟教会の歴史と自然考古学公園の地域の中に踏み込む時 現代人は 古代の人々がこの地域のかもしだす雰囲気の中で どのように生きたか どのような岩窟文明があったかを 知ることになるだろう。

ポリーノの国立公園は イタリアー大きい公園と云えよう。自然に大きく隆起した部分はブナの森が広がり頂上に近づくともとても珍しいとされるピノロリカートの松の林が見られ 植物学上の財産とも云えよう。

この山岳地帯には 鷲、狼、猪、ふくろう、いたち、やまあらし等が生息している。この公園は また15世紀に逆のぼり バルカン半島に生まれた伝統を手つかずのまま守り続けてきたアルバニア民族の小さな集落が 今なお残っているのも注目すべき点である。ガリポリコニャート、ドロミテルカーノの公園は ガリポリコニャートの森から 隣接の全ての地域にまで広がっている。魅惑のドロミテルカーノには 砂岩によってつくられた絵のようにカステルメッザーノ高地から ピエトラペルトーザまで広がる大地のうねりが続く。

バセントの谷を支配するようにそそり立つ山の頂上や岩塊が作りだす珍しい背景が繰り広げられているのである。

## 芸術 文化 伝統

### 職人芸

小さな集落の中の古い家を訪ねると そこではルカーノの職人が作るたくさんの秀れた作品がみられる。こういった多くの作品は この地域の羊飼いや農民の文化の中から生まれた。それは 周辺の環境の中に存在する木材や 凝灰岩、麦わら、紙張り子、籐、布、粘土等から 作られ何世紀ものあいだ 家事や労働のために大変役立つ数々の秀れた品々であった。これらは道具としてもとても秀れているが なおかつ古き良き香りを有し、装飾としても珍重されている。

### マテラの ブルーナの祭り

毎年7月2日 600年以上にわたって行われている祭りである。守護聖女SS. ブルーナの名を讃える格調高い儀式行列のあと祭りは最高潮に達する。その時街の職人たちによって毎年作られる張り子の馬車に人々は飛びかかり破壊する。

この時 バジリカータに滞在してその場面に立ち会える人々は 間違いなくその興奮の中に巻き込まれることだろう。この破壊の有り様は この時期に街にいる多くの旅行者を茫然とさせるに充分である。

### 樹木信仰

神聖と世俗の混じりあった中で ルカーノの山岳地帯の山村には 樹木信仰がまだまだ広く存在している。その中でよく知られているのは マッジョ ディ アツェトゥーラであり これは云うなれば二種の木 すなわちマッジョとチーマの婚礼の運命を表すものである。これは罪をあがなう最も古い儀式である。

祭礼は 幾組かの猟師のチームで争われ チーマの枝に結ばれた銅の的を交代で撃ちマッジョをよじ登る競技によって決着がつくのである。

### カーニバル

農村文化は カーニバルを伴うものであり 大地の豊穡を得るために贖罪の儀式を行い それによって自然の再生と復活を祝うのである。

トリカリコでは 夫々 領主が小作農と3人の羊飼いに統率される家畜を識別するために 男性はマスクを着用する。そして 牛や雌牛に変装した若者達は土鈴にあわせて家畜の動きを再現する。

## イオニア海岸のギリシャ植民地

イオニア海岸沿いの地域は 考古学の愛好家にとって見落としてはならないところである。

事実 紀元前8世紀に最初のギリシャ植民地ができたところであり マグナグレチャの都市国家に発祥源をもつのが いまのメタポントであり

ノヴァシリ ポリコロなどである。これらの地域は今日でも地名のみならず 伝統、料理、方言などを検証してみても昔大いに栄えた文明に根ざしていることがわかる。

とりわけ考古学上最良の状態で保存されている遺跡は 何よりも雄弁な歴史の証人である。

## 極上の食卓

料理における芸術性は その国の国民の文明度をより明確にする一つの指標である。

ルカーノ料理は羊飼いと農民の料理であり とても素朴で純粋なものである。その特徴は大地が生み出した材料を様々に工夫して料理されている。

この土地の産物を使った伝統的な風味に富んだ料理が現代風にアレンジされていったのは 近隣の地域の影響もあったろう。すなわち ある料理は宗教上の行事と結びついているし またほとんどの料理は祭礼の時のみに用意されたものであった。

